

## 第1回検討会議を開催しました！

整備から36年が経過し様々な課題を抱える稲沢公園の再整備に向けて、『第1回稲沢公園再整備基本構想検討会議』が開催されました。検討会議には、学識経験者、地域団体代表の方々に加え、周辺の大学に通う学生にもご参加いただき、稲沢公園再整備に対して意見をいただきました。

日時：令和6年8月1日（木）10:00-12:00  
 場所：稲沢市役所 第1会議室  
 参加者：検討委員12名、周辺大学の学生3名  
 内容：



1	挨拶・自己紹介・正副委員長の選出
2	事業概要説明
3	スケジュールの説明
4	計画条件・課題の説明
5	基本方針についての意見交換

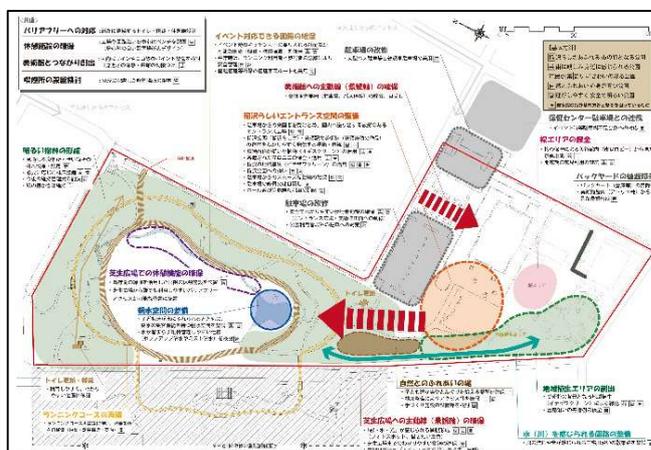
1. 検討会議参加者による自己紹介と、正副委員長の選出を行いました。
2. 稲沢公園の概要と、再整備事業について説明を行いました。
3. 当日の流れと、全4回実施予定の検討会議についてスケジュールの説明を行いました。

第1回（8月）	第2回（9月）	第3回（10月）	第4回（1月）
・事業概要説明 ・基本方針検討	・現地確認 ・計画案検討	・計画案検討 ・パブリックコメントに向けて	・最終計画案の確認

4. 稲沢市が策定している上位関連計画（次ページ参照）の中で公園再整備に関する事項と公園の現況について説明を行うとともに、現在稲沢公園が抱えている課題事項を共有しました。周辺に位置する名古屋文理大学・愛知文教女子短期大学の学生にも、授業や研究でまとめた稲沢公園に対する意見・課題を挙げていただきました。
5. 上位関連計画や課題を踏まえて市が作成した再整備の基本方針とその展開について説明を行いました。

上記までの説明に対して、委員の方々に意見を発表していただき、公園の課題と基本方針について意見交換を行いました。ここでいただいた意見を踏まえて、再整備の基本方針を確定し、計画案の作成を行います。

主な意見
昔は賑わっていたが年々利用者が減り、若者にも認知されていない印象がある。
稲沢公園の認知率を高める手段としてイベントの開催は良い。
一時的にお金がかかっても、長い目で見て維持管理のしやすい、維持管理費のかからない公園になると良い。
一枚の写真を見て稲沢公園とわかるような印象的なものが不足していると思う。
美術館鑑賞後にその余韻に浸れる場所があると良い。
暗い、死角が多いという印象が強く、特に夜は近づきたくない。防犯性に配慮する必要がある。
親が遊ばせたくないような、子供が楽しんで遊べる場づくりが必要。



基本方針図

上位関連計画

第6次稲沢市総合計画

国府宮駅周辺の再整備によって、将来的に稲沢公園周辺の人口増加することが予想される。
地域住民が愛着を持てる公園・緑地の再整備により、市民にとっての憩い・交流の場を創出。
地域住民・団体の意見を取り入れた、使いやすく特色ある公園・緑地を整備し、維持管理に地域住民などの参加を促して地域の愛着を深める必要がある。
荻須記念美術館では、收藏品や催事の充実に努め、芸術に親しむ機会を作り、芸術が身近にある暮らしを創出。

稲沢市都市計画マスタープラン

土地利用計画では、市街地区域内の住宅専用地。
稲沢公園は、近隣の美術館・大学とともに文化の杜とされ、将来都市構造においては市民が文化的な交流を行う文化交流拠点。
拠点である公園・緑地は、イベント活動や交流の場を通じて、より人が集える仕組みを検討。
公園再整備では、地域の要望や特色に合わせて防災の観点にも配慮。
稲沢公園における民間事業者の活用。
三宅川・大江川沿いの水と緑のネットワークづくり。

緑のマスタープラン

基本理念：健康的で快適な暮らしが実感できる個性豊かな緑のあるまち
稲沢市の特性を発信するにふさわしい場所として、都市公園の積極的な魅力化を促進。
市民や事業者が緑の存在価値を認識・共有し、緑の保全・創出を行うことが求められる。
まちのにぎわいの場や交流の場として公園緑地の既存ストックを適切に維持・整備・創出することによる利活用の魅力を向上。
一時避難場所に指定の公園について防災関連施設の設置推進。
稲沢公園は、緑の将来都市像において緑の拠点連携エリアで、緑に包まれた市民交流や文化交流の場としての文化交流拠点。
稲沢公園の魅力向上のため、周辺大学や美術館利用者等が利用できる飲食店やワゴン販売等で、民間事業者の活用を検討。

第3次稲沢市環境基本計画

稲沢市の恵まれた自然環境を次世代に継承。
一人ひとりが自然を大切に、地域レベルで生態系の保全に努め、生物多様性を維持回復していく。
生物多様性の確保と人間活動の調和を図ることを通じ、環境にも配慮しながら経済・社会的な課題に対応していく。
自然を通して次世代に豊かな心を引き継ぐため、人と自然のふれあいの場づくり、ふれあいの増進を図る。

第2次稲沢市観光基本計画

芸術文化のシンボルである荻須美術館では、荻須画伯に関する作品・資料の収集や、特別展・企画展の開催により鑑賞の機会を提供。
荻須美術館は、市内の大学等と連携し、体験型イベントをはじめとする美術館の魅力向上と市内外からの集客につながる事業を展開。
季節や地域の魅力を伝えることができる既存の祭りやイベントに加え、特産品を活用した食のイベントや体験型イベントなど、来訪者が気軽に楽しめる新たなイベントを創出し、来訪者の増加を図る。
トイレや休憩所、駐車場等の各施設の整備においては、バリアフリー化やユニバーサルデザイン化に努める。

稲沢市生物多様性地域戦略

公園緑地などに加えてビオトープなどを整備し、孤立した自然につなげて生態系ネットワーク化し、生物が生息できる場を創出。
自然を通して次世代に豊かな心を引き継ぐため、ふれあいの機会づくりの増進を図り、人と自然とのふれあいの確保を目指す。

稲沢市地域防災計画

稲沢公園は、避難場所へ避難する前の中継点である「一時避難場所」。
稲沢公園に隣接する稲沢西中学校は、避難場所及び避難所に指定。

稲沢市洪水ハザードマップ

稲沢公園は、三宅川に隣接しているものの、周辺と比べて予想浸水深が浅く、一時避難場所として適した場所である。
---

荻須記念美術館

荻須記念美術館意見

美術館設計時の基本方針をできる限り踏襲したい。
現状の駐車場は、美術館の非日常体験と駐車場空間を切り離すために、背の高い生垣によって美術館周囲の空間から独立させたい。
美術館設計時、マロニエを中心としたパリの街の雰囲気を感じさせる「オグスグリーン」と、稲沢の植生から選ばれた「イナザワグリーン」をテーマにした植栽計画を守りたい。
美術館西側広場のマロニエ（セイヨウトチノキ）は、荻須家の意向で植えられたものであり、残したい。
美術館西側広場は、ボールの壁打ち等子供たちの遊び場として利用されており、そういった利用の受け皿となる場が公園内にあるとよい。
木の実を食べたり植物を使って遊んだり、子どもたちが自然の中で体験ができる空間があるとよい。